

公益財団法人化のごあいさつ

事業団は、行政庁の公益認定を受け平成25年4月1日付で、財団法人杉並区障害者雇用支援事業団から公益財団法人杉並区障害者雇用支援事業団に移行しました。

主な事業としては、「就労移行支援事業」(20人定員)と障害者の就労支援・生活支援を一体的に提供する「区市町村障害者就労支援事業」(区受託事業)を行っています。これらの事業の充実とともに、福祉施設や関係機関、企業と連携して地域全体の就労支援力の一層の向上に取り組んでおります。

ところで、近年、杉並区でも精神障害、発達障害の方からの相談と就職後の定着支援対象者が年々累増したこと等により、効果的かつ効率的な支援体制のあり方が問われています。

これらの課題に対処していくうえで、次の3つに力を入れて事業を進めていく必要があると考えています。

一つは、障害者一人ひとりの置かれた状況やニーズの把握、雇用情勢の動向や企業における働き方の変化などを的確に把握するように努めることです。二つ目は、担当スタッフの一層のスキルアップを図り、職場と本人のマッチングをていねいに行うことで安定した障害者の雇用を目指すことです。そして三つ目に、雇用後の職場訪問や就職した障害者が交流する場等を通して、本人や企業の方とのより良いコミュニケーションをとっていくことです。今年度は、特に、これら3つの項目を実践することで、障害者雇用を推進してまいります。

事業団は、これからも地域における障害者就労支援の中心的機関としての役割を発揮し、期待に応えていけるよう職員一同取り組んでいきますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。



平成25年度上半期 雇用支援ネットワーク会議

ワークサポート杉並では、区内の就労支援を進めていくために、地域の障害者施設や関係機関と連携しています。そうした連携のひとつである「障害者雇用支援ネットワーク会議実務担当者会」（以下担当者会という）を毎月1回開催しています。区内作業所や相談支援事業所等の関係機関がメンバーとなり、支援員の就労支援のスキルアップに取り組んでいます。



今年度の担当者会では「アセスメント力をつける」「利用者の就労上の特性を伝える力を高める」「企業の障害者雇用を知る」という目標を決めて取り組みます。

利用者を知るためのアセスメントには、「就労の準備性をチェック」するために担当者会で作成したシートを活用します。

また、前期で2回模擬面接会を予定しています。模擬面接会では、支援者が利用者の特性を伝える力を高めるとともに、利用者にも面接体験をしてもらい、実際の企業面接に役立ててもらおう取り組みです。



ネットワーク会議の様子です

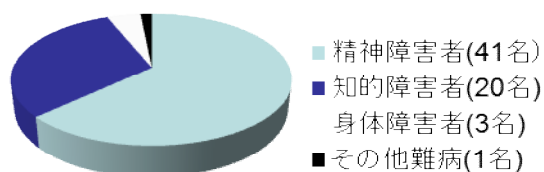
7月には特例子会社の人事の方に担当者会に参加していただき、障害者雇用の現状や企業について説明してもらう予定です。また、8月にはその特例子会社に見学会も予定し、支援者が企業を知る機会にしたいと考えています。

平成24年度の就職状況

平成24年度の就職者は、A表のとおり65名で、その障害別の内訳をみると精神障害のある方が最も多く、全体の63%を超えています。

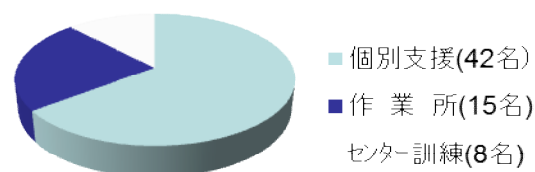
また、B表では個別支援の利用者の就職が最も多く、64%を超えています。作業所からの就職者も年々増えています。

A表：障害別（合計65名）



注：合計65名の中に12名の発達障害を含みます。

B表：利用区分別（合計65名）



注：「個別支援」は、「作業所」や「センター訓練」に所属していない利用者です。

お世話になりました。

生活支援員 東 幸子
（3月31日付 退職）
経理担当 穴井かえで
（3月31日付 退職）

新しく加わりました。

生活支援員 高見としみ
（5月1日付 採用）

就職しました。（4月）

軽作業	2名
事務補助	2名
受付	2名
保育補助	1名
運転助手	1名

